

研 修 報 告 書

令和 8 年 8 月 10 日

松阪市議会議長 濱口 高志 様

報告者 松阪市議会議員 田中正浩

1 研修の概要

- (1) 研修名 「AI を使った議員活動実践講座」
- (2) 受講日 令和 8 年 8 月 4 日（火）・8 月 5 日（水）
- (3) 開催場所 リファレンス西新宿大京ビル（東京都新宿区西新宿 7 丁目 21）
- (4) 主催者 地方議員研究会
- (5) 講師 黒瀬雄大 氏

2 研修の目的

生成 AI を議員活動にどのように活用できるかについて、一般質問、財政分析、公共施設、行政資料の整理という四つの分野から実践的に学び、調査研究及び政策提言の質と効率を高めることを目的として受講した。

3 研修内容

(1) 質問編

住民相談や地域課題を一般質問へ発展させる際に、AI を用いて関連する論点を広げ、質問の目的、現状、課題、原因、改善策という順序で整理する方法を学んだ。また、想定答弁を入力して再質問や切り返しを準備することにより、質問の深度を高められることを確認した。

AI が作成した文章をそのまま使用せず、地域の実情と自らの問題意識を加える。

(2) 財政分析編

予算書、決算書及び財政資料を AI に読み込ませ、前年度や類似事業との比較、不用額、執行率、成果指標等から異変や課題を見つける手法を学んだ。単なる数字の増減確認にとどめず、その原因や事業成果を検証し、一般質問や次年度予算の審査につなげることが重要である。

複数年度の推移や類似団体との比較により、単年度の数字だけでは見えない傾向を把握する。

AI の分析結果について、計算根拠と元資料を照合し、誤認や読み違いを防止する。

(3) 公共施設編

学校、庁舎、公民館等の公共施設について、老朽化、再編、維持管理費、利用状況及び将来負担を整理し、質問へ結び付ける方法を学んだ。施設単体の改修の是非だけでなく、公共施設等総合管理計画や個別施設計画との整合性、住民サービス、防災機能、ライフサイクルコストを総合的に検討する視点が必要である。

計画、利用実績、改修履歴、維持管理費等を横断的に比較する。

行政側の効率性だけでなく、利用者・住民の安全性と利便性から課題を深掘りする。

(4) 資料活用編

長文の行政計画、議会答弁、会議録等を AI で要約し、複数資料の共通点や相違点を比較する方法を学んだ。調査時間を短縮できる一方、要約過程で重要な条件や例外が失われる可能性があるため、最終的には原文を確認し、根拠資料を明示する必要がある。

過去と現在の答弁、計画上の目標と実績を対比し、説明の変化や未達成事項を把握する。

個人情報、未公開情報、機密性のある資料の取扱いには十分注意する。

4 研修で得た知見と今後の活用

AI は、資料収集後の整理、論点の洗い出し、比較分析、質問案及び再質問案の作成において高い有用性を持つ。今後は、決算審査や一般質問、公共施設整備、防災対策等の調査に活用し、限られた時間の中でより多くの資料を検討するとともに、質問の根拠と論理構成を一層充実させたい。

その際は、AI の回答を結論として受け入れるのではなく、

- ①出典及び最新情報の確認、②計算や数値の照合、③行政資料・法令原文との突合、④地域の実情及び住民の声の反映、⑤議員自身による最終判断、を徹底する。AI を調査・分析の補助者として活用し、議員としての説明責任を果たすことが重要である。

5 所感

今回の研修を通じ、AI は一般質問のテーマ設定や質問文の作成、財政資料の分析、過去の答弁との比較、再質問の検討など、議員活動の幅広い場面で活用できることを学んだ。膨大な資料を短時間で整理し、論点を明確にする AI の能力は非常に高く、改めてその可能性と素晴らしさを実感した。

一方で、議員側が AI を使って質問を作成し、執行部側も AI を使って答弁を作成するようになれば、議会で行われる質疑が AI 同士の文章のやり取りになり、「果たして議員は必要なのか」と感じる場面が出てくるのではないかなという疑問も抱いた。

しかし、AI は地域を歩いて住民の声を直接聞くことも、行政施策によって困っている住民の思いを実感することもできない。また、AI が示した内容が正しいかを確認し、どの課題を議会で取り上げ、どのような政策判断を行い、その結果に責任を負うかは、人間である議員の役割である。

今後、議員に求められるのは、AI に質問文を作らせることだけではなく、住民の声や地域の実情を AI に適切に伝え、その回答を検証し、自らの言葉と責任で議会質問につなげる力である。AI を議員の代わりとしてではなく、調査・分析や論点整理を支援する道具として適切に活用することが重要であると感じた。

(講習前講師紹介)

